

東京大学

▼ 熊本地震に係る支援活動の概要

1. DMAT、医療支援チームの派遣

- 4月17日 厚生労働省DMAT事務局より東京都の日本DMAT隊に派遣要請があり、2隊10名で出動エントリーし、待機。その後本隊への出動依頼は無く解除。

2. 支援物資の提供

提供先	物資
九州大学	飲料水2000ℓ、食料2000食（4月28日）

3. 義援金募集

寄附先	金額	団体
熊本県熊本地震義援金	20,000円	クマモト×トウダイ～銀杏プロジェクトだモン～ 駒場支部（教養学部1年18名）
日本赤十字社	4,900円	北海道演習林職員有志（クマゲラの会）

4. 被災大学の学生・教職員支援、被災者への支援（住宅提供等）

- 熊本大学被災で実験施設が使えなくなった学生1名を、実験を行うため、受け入れ予定。
- 大月敏雄教授は被災者支援として下記の活動を行った。
 - 4月30日 熊本県仮設住宅担当部局へ、仮設住宅計画に関する情報提供を行った。
 - 5月28日 熊本県三隅町長へ、仮設住宅生活支援に関する情報提供を行った。
 - 5月28日 熊本県仮設住宅担当部局へ、仮設住宅生活支援に関する情報提供を行った。

5. 研究活動

- 五百旗頭薫教授は山鹿市三玉地区公民館において聞き取り調査を実施した。
- 太田響子特任研究員は益城町役場において高齢者等災害弱者支援における官民連携に関する情報収集を行った。
- 羽藤英二教授は、熊本震災復興調査のため4月15日～17日、4月24日～25日に熊本県上益城郡益城町で被災地の現地調査を行った。
- 古閑潤一教授は、5月7日～10日に熊本県熊本市、南阿蘇市にて被災地の現地調査を行った。
- 小澤一雅教授は、災害復旧現場における建設技術者調査のため6月19日に熊本県熊本市にて被災地の現地調査を行った。
- 長山智則教授は、4月29日～5月1日、5月14日、7月27～28日に熊本市・南阿蘇村周辺で被災地の現地調査を行った。
- 内村太郎准教授は、震災による土砂災害地域の調査および斜面災害被害調査のため4月16日～17日、5月27日～28日に、熊本県上益城郡益城町および同県阿蘇市にて被災地の現地調査を行った。
- 鳩山 紀一郎講師は、熊本復興に関する現地調査のため5月15日に熊本県上益城郡益城町にて被災地の現地調査を行った。
- 伊山潤准教授は、5月25日～27日、6月6日～9日に熊本県上益城郡益城町、同阿蘇郡産山村で被災地の現地調査を行った。
- 塩原等教授は、熊本地震による建物への構造被害調査のため5月2日～4日に熊本県熊本市にて被災地の現地調査を行った。
- 大月敏雄教授は、熊本地震に関わる住宅復興調査のため4月29日～30日、5月28日～29日に熊本県熊本市にて被災地の現地調査を行った。
- 田尻清太郎准教授は、熊本地震の建物の構造被害調査のため4月16日～17日、4月30日～5月4日、5月22日～23日、6月2日～3日に熊本県熊本市にて被災地の現地調査を行った。
- 瀬田史彦准教授は、公共施設再編についての現地調査のため5月1日～2日に熊本県宇城市にて被災地の現地調査を行った。
- 滝沢智教授は、熊本地震における水道施設被害等現地調査のため6月8日～10日に熊本県熊本市にて被災地の現地調査を行った。
- 谷口将紀教授はくまもと復旧・復興有識者会議において、過去の大規模災害等の復興に関する知見や創造的復興に関する知見を提供した。
- 地震研究所は被災地の現地調査（延べ46名以上）を実施、各種国際・国内学会・セミナー等において報告を行っている。以下は一例。
 - 6月21日 第274回 発生研seminar（地震に関する特別講演）講演 最新科学からみた熊本地震 平田直地震研究所地震予知研究センター長／熊本大学発生医学研究所IMEG1階カンファレンス室 <http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/seminar20160621/>
 - 地震研究所HPに研究活動を掲載。 2016年4月14日 熊本地震 <http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/2016/04/18/2016e5%b9%b4%ef%bc%94%e6%9c%8814%e6%97%a5%e7%86%8a%e6%9c%ac%e5%9c%b0%e9%9c%87/>

6. その他

- 4月19日 本学HPに総長名でお見舞いを掲載 http://www.u-tokyo.ac.jp/ja/news/notices/notices_z1301_00007.html
- 被災学生の授業料免除・・・7名
- 地震・火山噴火予知研究協議会の史料・考古部会が中心となって、被災した家屋や蔵などに所蔵されていた史資料を安全な場所へ避難させて修復・整理するために、現地で活動している歴史資料ネットワークを支援し、歴史地震資料の保全活動を実施した。
- 京都大学地球熟学研究施設火山研究センター（南阿蘇村）の研究機能回復のため、観測網の復旧と仮事務所開設の支援員として、地震研究所の地震・火山噴火予知協議会火山部会の調整により、他大学と協力して研究者を延べ13人/日派遣した。
- 阿蘇火山周辺の観測点のリアルタイム観測データの流通経路を切り替えて、全国の研究者や気象庁等の関係機関へ配信している。